



【表紙写真】

東京スカイツリーが応援!

上:「世界が一丸となってコロナに打ち勝とう」とのメッセージを込めたライトアップ。

濃いブルーは地球を表しています。

下:東京オリンピック聖火リレーが通過する都道府県のイメージカラーにライトアップ。

表紙になるかも?

あなたの写真で全国に温もりを届けてみませんか

「小さな親切」誌では、下記のテーマの写真を募集。写真は本誌やWebサイトに掲載するほか、表紙に使用させていただく場合があります。採用された方には、粗品をプレゼントいたします!

- 親切な風景
- あなたの街の素敵な風景
- あなたのほっとする場所

〈申込方法〉

- 写真は紙焼きではなく、下記の方法でデータでお送りください。

【メール添付】 skm1963@kindness.jp

【DVDなどを郵送】

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
公益社団法人「小さな親切」運動本部 写真募集係

〈注意事項など〉

- 写真のサイズ: (スマホの場合) 800KB以上
(デジタルカメラの場合) 3,456 × 2,304ピクセル以上
- 人物がうつっている場合は、肖像権の侵害がないようご注意ください。
- 他のコンテストなどへの応募作品はご遠慮ください。

「小さな親切」誌は、季刊発行

春号・5月、夏号・8月、秋号・11月、新着号・1月の予定です

2021年5月25日発行 通巻522号

編集・発行人 鈴木恒夫

発行所 公益社団法人「小さな親切」運動本部
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-20-4
TEL.03-3263-2866 FAX.03-3263-3838
https://www.kindness.jp/

印刷所 広研印刷株式会社

©無断転載禁止 落丁、乱丁はおとりかえいたします。



恒さんが行く!

今

年2月10日、ついに私は傘寿(80歳)を迎えた。日本人の男性の平均寿命は昨年の国のデータで84.41歳。まだ私は人並みには少し時間があるが、それでも感無量の誕生日となった。ちなみに女性は、87.45歳。女性の強さに敬意を表したい。

なぜ私が感無量の思いだったかということ、それは亡き父の顔が、遺言状の最後に書かれていた歌とともに、あらためて脳裏に浮かび上がってきたからだ。

父は横浜の北部の農家に生まれた12代目の当主。裏山の裾にある鈴木一族の内墓には、1626(寛永3)年と刻まれている塔が残されているから、いま家を継いでいる14代目はあと5年ほどで400年の日を迎える。

もともとが仏教・曹洞宗の家で、父は幼いころから寺に修行に出され、朝晩には仏壇の前で読経。

その一方で、俳句も和歌も楽しむというイキな男であった。

私

はこの父の7人の子の上から5人目。三男坊だったから、代々続いた田や畑などの相続は父に放棄を命じられていたし、子どものころから新聞記者志望。思い通りに毎日新聞に入社できて帰宅した時、父に手を握られながら言われた言葉が忘れられない。

「おまえ、ブン屋になんかなりやがって……」。

ニヤリと笑った父の顔に、私はユーモアたっぷりの満足感を感じたものだった。

その父の残した遺言状をあらためて引出しから取り出して読んでみたのは、80歳の誕生日のことだった。父が67歳の時の秋に書いた珠玉の文。

『将来三十年、五十年、百年を経過する暁には、諸氏の生家が近隣に豈(そび)ゆる巨峯と仰がる事を期待し(遺産相続のあり方を説いて)、万一ある場合は吾必ず父として言い知れぬ罰則を加へる事を表明する)』。

そして最後に「隆治(たかじ)記」と署名のあと、次の歌が……。

い曲がり すぐ古稀の宿 目のあたり
足さへ続けば 八十路訪ねん

父

の人生の最大のヤマは53歳の時、「放火泥棒」に代々続いていた屋敷を全焼されたこと。土蔵だけは焼け残ったが、大世帯を抱えて旧家を守り抜いた苦労は想像を絶するものだっただろう。元気に古稀を越え、体がもてば「八十路訪ねん」と詠んだ氣力の見事さ、そして尊さ。

その父を支え抜いた母の名は「シン」。おシンさんは7人の子を育て、没したのは88歳。ことし5月に23回忌の法事が予定されている。

父さん、母さん。お蔭さまで、恒夫も80を越えられました。あれこれ身体にガタがきていますが、少しはお二人に誇りにしていただけるよう、これからがんばりま〜す。

傘寿を超えて……

代表 鈴木恒夫